

土壤の三相(どじょうのさんそう) |

土壤は一般に無機質と有機質から成る固相粒子から出来ており、各粒子の間には孔隙と呼ばれる隙間がそんざいする。孔隙内には水分と空気が満たされており、その比率は孔隙の大きさと分布によって変化する。比較的小さな孔隙内には水分が満たされ、空気は大きな孔隙に分布している。土壤を構成する固相、液相、気相を土壤の三相と呼び、それらの割合が作物の根の伸長や水分、養分、酸素などの供給の難易に関係し、作物の生育に重要な役割を与える。三相の割合は固相粒子の凝集状態によって左右される。各粒子が単独に並んだ単粒構造から成る土壤では、孔隙率が低くなり、排水、保水および通気性が悪く、植物の根の伸長に不利となる。一方、個々の粒子が凝結して、土壤内に団粒構造が発達すると様々の大きさの孔隙が生じ、植物生育にこのましい条件を与える。

(古澤)